

教育実習レポート

[市立 I 高等学校 保健体育] 氏名 : M. H

三週間の教育実習を終えた今、ほっとした気持ちと淋しい気持ちを感じています。この三週間は、生徒に授業の内容をわかりやすく伝えるにはどうすれば良いのか、生徒に授業を楽しく受けてもらうためにはどうすれば良いのかなど、終わってみれば常に生徒のことを考えていました。生徒のことを第一に考え、そのために行動する。それが教師だと感じました。

実習三日目にホームルームの担当クラスで自己紹介をした時、緊張しすぎて固くなってしまい、思うように話せませんでした。このままではダメだと思い、朝と終わりのショートホームルームや休み時間、放課後等の時間に自分から生徒に声をかけ、できるだけ長く教室に残り、生徒と交流する時間を作りました。すると生徒も心を開いてくれたのか、話しかけてくれたり、だんだん自分自身のことを話してくれるようになりました。自分から声をかけていなければ、こんなに生徒たちと打ち解けることができなかつたと思います。授業では、思った通りの授業ができず、とても悔しい思いをしました。自分がわかっていることを生徒に伝えるということが、どれほど難しいことなのかということを感じました。どのように説明すれば生徒は理解してくれるのか、生徒の立場に立ってもっと深く考えなければならぬと感じました。その時に、教科担当の先生から三つのアドバイスを頂きました。

一つ目は、話し方に抑揚をつけることです。一定のトーンで話されてもどこが大事なポイントなのかわかりづらいし、眠たくなってしまいます。大事なところは声を大きくするなど、話し方に抑揚をつけることで大事なポイントがわかりやすくなると教わりました。

二つ目は、板書の仕方を工夫することです。生徒は、授業後には教えた内容は忘れてしまいます。だけど黒板はちゃんと写している。後から見て授業をイメージできるような板書作りが必要だと教わりました。教科書に書いてあることを書くだけでなく、それをわかりやすく図にしたり、補足することも大切だと思いました。

三つ目は、雑談を入れるタイミングです。生徒の興味をひきつけるために、まず導入部分で一つ入れ、中弛みする途中で二つ目を入れる。最低二つは入れた方が良いと教わりました。教える範囲の予備知識を持っていることに越したことはないと思いました。教材研究の大切さを改めて理解しました。

そして、クラスの違いによって授業のやりやすさが違うことにも気づきました。あるクラスでは空気が重く、緊張し、声が小さくなりがちでした。ところが、同じ内容を別のクラスで行うと別人のように緊張がほぐれ、リラックスして授業に取り組みました。それは何故か。反応があったからでした。常に笑いが絶えないクラスであり、質問をすれば手を上げて積極的に答えてくれました。知らず知らずのうちに生徒にたくさん助けられていたのだと気づかされました。授業が終わった後に、「先生の授業わかりやすくて、とても楽しかったです」や、「先生の一生懸命さが伝わる授業でした」と言ってくれて、やって良かったという気持ち

ちでいっぱいになりました。自分が思っているよりずっと、生徒は良い所や悪い所を敏感に感じ取っているのだと気づかされました。先生がおっしゃっていた「生徒は先生」という言葉の意味がよく理解できました。まさにその通りだと思いました。

この教育実習は、教員をめざすだけでなく、ひとりの人間として大切なことをたくさん学ぶことのできた本当に充実した三週間でした。厳しくも、温かくご指導してくださった先生方、私たち実習生をととても好意的に受け入れてくれた生徒たち、大好きなI高校で教育実習を行わせて頂けたこと、とても感謝しています。本当にありがとうございました。